# 水滸画傳

中

へ 13
3560
2

豹子頭林冲

街ふ末ぬ斂羽ハ鴛鴦の
夫婦の睦を断截。
山ふ振ふ信義の刃ハ
主と撰で制くろう
白虎の前門遁
るゝふ路なく天
王の後門避るふ
みとらあり心性
正路とをしれバ
いづらんぞ
鬼魅邪魅も
是れを
害せん乎や

門 へ13
號 3560
巻 2

早稲田大学図書館
昭 34.6.3 購入
蔵書

天罡星三十六員之内天雄星

## 豹子頭林冲

此一個の東京八十万禁軍鎗棒教頭すり、身の長八尺武術敢て豎ぶものなし。其紋岳廟詣の路癖ふ、大相国寺の菜園を、審と闘けバ吁珍らしや。丈なる鉄杖うち振僧あり。援て名を問バ魯智深なり。歓喜斜ならずして。即兄弟の義を結べり。世ふ忌ましき歓後の歎、妻が身の上ふ預起れり、其故いんと是を問ふ、衆人毒太尉と慄怖る、彼高俅が獨嫡、高衙内てふ狡猾あり、道ふ逆ける色を好で、今林冲が妻ふ及べり。屢諭けど貞節崩れず、殆情意を熾もありしら陸謙等が助才あって。密談譜話ふ日を経るうち。豹子も心の欝を晴さんと氣の慍なる

花和尚を、誘て登る酒樓、盃把て武を講ド、兵を談ずる樂ハ、月前花下の管絃より、十陪勝る興さへも、鮫なくあらそ白鞘の、陰謀の刀を街ふ買て、白虎節堂ふ擒となり、滄州ふ配流せらる通路野猪林の危なく、智深が杖の助を得、柴官人が欵待なく、洪教頭が骨を咬、配所ふ陸虞が害心逼せバ、山神廟の臭あるなく、草料場の夜の雪を、猛火鮮血真紅ふ染成し、悪計忽なひちがふて、三個の毒夫却て豹子ふ憤殺せらる、凍苦ふ逼る茆舎の頭ふ、不意もびや官人ふ偶ひ難を遁て梁山ふ上り投名状ふ揚志を得、晁蓋呉用等を迎るふ臨で王倫を斬て主と定む、扈三娘を始として強をりみ捉堅を破る、その功揚て算へがたし

## 霹靂火秦明

霹靂の如くに呼べハ。邪徒膽を損し狼牙半に振へバ毒軍身を糊にを生て大宋の臣ならバ。死をとも大宋の鬼たらん。

## 鎮三山黄信

三山と鎮る犇を専とせバ。偏に梁山と鎮を混名ハ禮のしるし山ならんとしるよ。

心ハ義のしるに聳て。三山兗も芥子の像し。

天罡星三十六員之内天猛星

## 霹靂火秦明

此一個ハ山後開州の人にして官ハ青州府の統制たり。性殊に火急なれば、箸作ても怒を発し、其聲雷に彷彿たれば、霹靂火と混名せり。狼牙棒を練熟て使ふに一揮振へバ数百の敵を粉となし飛せ。一時門士の黄信が清風山に破と執りしを憤て清風山を奮地に攻てその急なるを炮矢の像く遂に花栄儕が謀の坑に陥り却て敵の助と得て一遭府城に還ると雖も府尹素より愚鈍にして城内に容されざれば擄に度を失ひ更に宋公花栄儕が仁義の深きに泥熟し鄕花栄妹を与ふ是を納て妻となし水泊に安住して義膽ますます壮大なりぬ

地煞星七十二員之内地殺星

## 鎮三山黄信

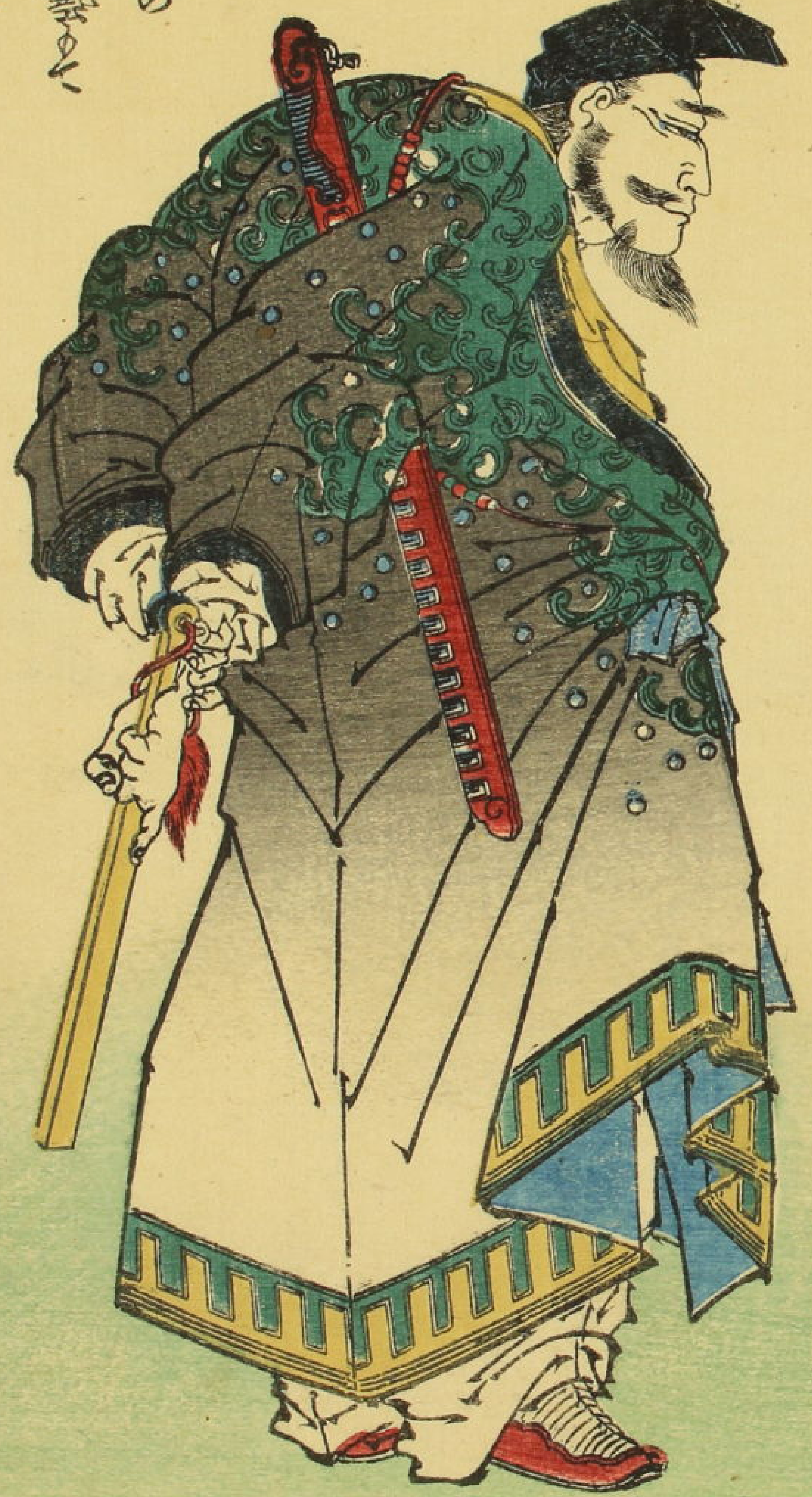
此一個ハ青州府の都監なり。秦明の門に学て武藝頗高強なり。よく喪門剣を使熟して、鉄石といへども触る時ハ必斬らずといふ事なし。身ハ長大にして蛟の像く。平日に驕て謂ことあり、我誓て青州三山（三山ハ桃花山二龍山清風山といへり）を平鎮せんと罵りしが、閭俗此語を听しより鎮三山と混名せり。其頃清風寨に事起て文知寨劉高が内意に依り、府尹の命を蒙て寨に至て密に計り宋公花栄を擒にし是を陥車にして青州府に還く途中二の陥車を失ひ、君寨に籠りしも、師秦明が利舌に伏し、邪を舎遂に義に走て英名高く梁山の星境界に輝せり

## 小旋風柴進

隼と碧霄に翱せては仁を天公に告げんと欲し、狗と緑野に趺せては徳を鬼神に訴へんとも。知らず田文が三千の客のうちに、宋公李逵の豪傑ありや乎。

## 青眼虎李雲

手裡の因索は恰も常山の蛇の像く、首尾よく心の自由にして、ひとり妙なる擒術あり。旋風と綁しめ洪水と縛なる。允書の捉官の能ざる技藝もて天賊地魔を捕ふ。旋風ハ李逵也



天罡星三十六
員之内天貴星

## 小旋風柴進

此一個ハ代々滄州ニ館ぞ。是大周の柴世宗が子孫なり。況や太祖武徳皇帝より。鉄券を賜るゆへに。刀諍の禍家ニ蒙る事なく。五十餘個の豪傑を養て。財を惜むことなきをもて柴大家人と稱ふ或年叔父柴皇城が病と訪て。高唐州ニ来り。李逵が殷天錫を打殺せしより。彜威折て高廉が怒とうけ強ニ囚て囹圄ニ墜る。宋公遥ニ是を听て眉ニ火の着許ニ急ど。軍馬を発して州府ニ直進せ。猛威を振うて穿鑿なしようやく深井の中ニ官人を尋當。李逵を卸して助出し。即地ニ仇を返達せ。宋公等が勧めニ任せ。水泊ニひぞるたれて。家を全ふし妻子を安ぞ



地煞星七十二
員之内地察星

## 青眼虎李雲

此一個ハ沂水縣の都頭なり。山窟野竄ニ賊を。覩頭を縛の奇あるを以て。青眼虎と綽号し讃さる。同郷なる沂嶺が山下。曹太公が女の訴を。听より逮く杖索擒掌。捕士ニ指揮し曹家の聟なる。李鬼を殺せし暴夫なりとて黒旋風と押捕語。手ニ噛して。索三寸のうちニ縛しめ。囚車ニ舁て来るを往うち。朱貴兄弟が欵待体の。麻酒ニ謀られて。李逵をうしなひ。士卒も過半斬戮され。禄ハあれども喰がたく。主ハあれども仕へがたし。此面目の。向べき方もなき比来。朱冨が巧める。舌尖ニ巻こまれて。終ニ水泊の陣ニ投て。蓋家の難を援られう

嶺上の午天の
暑氣をはらひ一盃
めしく試されよ。
枇杷葉湯の
能ハいくぐ旅の
疲れをとりて酒
に口をつくれバ
面のいろハ恰も
黄なる泥のごとし
と岡上に鬻ひて
大利を得ね、
白日鼠白勝

鼓上蚤時遷
楊雄石秀に祝鴨鉦
と覇食てハその
贖料に身を典
に投て祝家の
牢に苦しむ
梁に走バ徐
寧が家の下婢
ハ鼠かと听失ひ
樓に向へバ北京の
城の門子ハ犬かと
看惑よ甲を奪ひ
火を放つハ義に走の
所為にして雞と一様の
竦意なるぞ

地煞星七十二員之内地耗星

## 白日鼠白勝

此一個ハ黄泥岡の東安樂邨てふ瘠里ニ酒を商ひ賭の手場をも往日晁蓋が恩顧を蒙しゆゑ梁中書が贈金を奪んとする荷擔ニ加る亦晁蓋が夢の小星化して白光と成るの兆ニ應ぞ。既ニ當日の身行も一荷の酒ニ扮て添炮子をば藍もて稠く涂出る。抻まろめて汗拭却し。野調ニ紛らして全員と十万貫を倫果せ厥財ハまだ配もやらねニ。緝補使の弟なる何清が索ニ四の肢縊られて。東京の囹圄ニいれども。終ニ遁て梁山ニ来りし縁故ハ此漢子原より奇術ありて鼠空なれ。梭穴なれ身をかくして竄ること極て妙を得るゆゑ白日鼠との綽号せり

地煞星七十二員之内地賊星

## 鼓上蚤時遷

此一個ハ高唐州の人酒や賭ニ身を逼ふし。流落て蘇州ニ来り。しばらく楊雄が恵みを蒙り。素より奇妙術を得て簷を跳壁を走る。潜ニ翠屏山の墓を壊て銀器を探もと同じ天ニ。楊雄怒て此山ニ妻を殺の場ニ遇會。楊石二雄と偕ニ走て。祝家奉が家ニ宿し酔ニ乗じて雞を盗で喫ふ吏を茲ニ奮発して囚となりけるを。宋公等ニ救まれて水泊ニ安態も。徐寧が家の梁を走て秘する金の甲を奪ひ。北京攻の合挽ニハ上元花燈の賑しき夕。翠雲樓と一炬ニ焼。最も陳々ニ要ありてその功大ニ亦高し。

## 插翅虎雷横

潜賊ありと口風稠きに鄆城縣の
命を蒙東溪村の嶺上に
尋て來る楓葉ハまだ
赤からで綠林の
狡猊ありと索
昇れ赤熊の
ごとき大漢子
と灵官廟の
帳前に。縛め
からしも晁蓋が
家まで。身の
黒白と説なされ

四肢ハ脱てもどろに怒の
最鬱ぎれ。如何にも痛く
棘ちんと。追ふて一二里樹の
本に。大喝一声きり結ぶ。
ちどめの怨索のうらみ
ぞらしと。焔と飛を赤鬼
のつるぎ。中當つ末當つ
刀心劔のあれしる虎が
嘯くと象。千里ヶ外の
天にや听へて。智多星
らに来るへ鎮刀

## 赤髮鬼劉唐

天罡星三十六員之内天退星

## 挿翅虎雷横

此一個ハ済州渾城縣の鉄匠が子なり。身の長七尺五六寸面色紫棠の像く。髭ハ銅の鍼に侶たり。能澗潤を跳をもて挿翅虎とこそ綽号されつ知縣これが武を知て歩兵都頭の職を與ふ。有日閑人李小二と美人白秀英が歌舞を見る。雷横嚢に銭なきを秀英が父白玉喬誹を以て是を打擲此頃知縣秀英女を愛する絆浅からざれバ。其威を権て秀英が雷横を流人となせし。時の押牢節級ハ深友朱仝なるに依。是を哀みんで途中より縛を解逃しぬ。火中に水の恩を謝し母を背助て直定に梁山泊へ添武りね

天罡星三十六員之内天異星

## 赤髪鬼劉唐

此一個ハ東潞州の人満身黒く面潤く。髪邊に一の硃砂記あり。故に流俗赤髪鬼と綽号せり。北京の贈貨十万貫の首尾を告げんと。東溪村に來て見るが夜已にふけて。晁蓋が門に入會ず。古官廟に熟睡して。巡臉雷横が手に囚れたり。晁天王が舌畧に假甥となして縛を免がせしが。憤怒に堪へず追駈て。茂林の中に振闘ふ。雷横殆危かりしを。呉用晁蓋になだめらる。偕に帰て調畧なし。黄泥岡に望盈。梁山泊に頭となりてより。献初に千餘の兵を盗に添て。大将黄安を擒にし。連環馬軍に向ての副将韓滔を活捉にせし。就中高俅が船を焼るどハ。群に超たる大功なり

## 玉旛竿孟康

義名を琢くことハ。王の如く武勇を顕もとハ旛竿に似たり身ハ旛よりも翻て軽く。心ハ竿よりも真直にしてかくし動静よく此寶玉と持獲させる

## 立地太歳阮小二

主剛なれバ艸屋還て鉄城に勝まさ呉用が所好数斤の鯉ハ譚のうちに龍と成らんとせし勢あり網罟と黄泥岡の嶺に攤て東京への贈山鯨てふ大漁ありその重さを十万貫

## 活閻羅阮小七

掖揚る昨夕の罟の空しさに任他よ三度の糧よりも。嗜る酒の贖ひに。唯一領の蓑も曲しが今朝船の憎生や。水滸の雨にそぼぬれて。櫃に貯安の身に有らバ。一把の葦の赤心に。肩腰の寒さとそのふゆを

## 短命二郎阮小五

恒に編細罟の目よりも。自己が名の。五の目と逐てある胴八一擲千金さな大膽。家に四壁さへありもせず。富貴も志らバ貧も識らねへ。是豪傑の平生なり

地煞星七十二員之内地満星

# 玉旛竿孟康

此一個ハ真定州の人身の長八尺余有て眼最秀されバ玉旛竿と混名せり。拳闘ニ他を傷て他國ニ奔る途の半ニ断金の友なる鄧飛ニ値偶同身同意の欲まゝこゝろ。那邉の狡猾。這邉の飄男を随子とるし。飲馬山の嶺上ニ。剛盗を倣こと一年餘遂ニ戴宗が勧めニ随ひ。一百八個と苦楽を偕ニし。偏将軍が兜の纓を結びし。夏國の賊を伐ときハ西陵橋下の埋伏ニ。三阮と力を勠せ。杭州城の十将なる。茅迪を擒ニするし再び鎗を流整て。猛将と呼もなる湯逢士を。胸より背まで刺串く。敵前不退の英雄なり



天剣星 立地太歳阮小二
天罪星 短命二郎阮小五
天敗星 活閻羅阮小七

此三個ハ原より濟州石碣邨の産居ニして。兄弟偕共ニ漁夫なり。上の兄を立地太歳と綽号し中の兄を短命二郎と諢名し。弟を活閻羅と混字せり。陸ニ在てハ劍鎗戈戟を熟講。水ニ投てハ浮沈往来溪鬼も面を掩て伏せ。櫓竿を撑て船を行こと。順逆縦横遅速動静糸ニして物を牽が像し。一日呉用が訪ニ偶ひ。兄弟三個一致ニ。肝を傾け胸を開き雀の如躍つ舞つ。その歓の深きこと濟江と共ニ涯るし。蓮花の万柄開布なる。岸測ニ舟を撑着て。倒水閣ニ宴を搞け。秘事を語ら密意を話し首尾揃なる厥大魚拾万貫を網し獲て。却て自己倖官手の網ニ捕え

ことを慮り。晁蓋倂と一齊に水泊の陣に退入とき。官将何濤を勾引て。
小五が水に穽投ば。小七虚さず擒捕ふ。軍功これを叙として。江軍湖
戦に臨では。一場も缺さる所なし。就中名盈る擭は小七水子の長と
なつて。陳大尉を迎る晌船を倒して天中の御酒を勝奪ふ。遂に
梁山の蒼浪に纓を洗ふて。大宋の朝臣となり三個諸共。偏将
軍の職を握て戚恰も涇河に跳る鰐鮫の像く。方臘攻に馳向へば。
船兵の頭領として。江陰の軍には嚴勇を打損し。太倉城の戦ひへ。李
玉と殺してその圖に乗ド。常熟の城を伐落き。此三傑の猛兄弟が南
國攻の功労は。筆紙にもつて竭し難く言語にもつて舒がたし